



# BONEYARD SHAWL

デザイン：スティーヴン・ウェスト



モバイル編みや家でつろいで編むのにピッタリの、シンプルな三角ショールです。いったん編み始めたら、このあたたか小物のパターンは簡単に覚えられますよ！

僕は並太のツイード風ウール糸でこのショールを編みましたが、極太や中細、段染め、コットン、シルク等、どんな太さ、素材の糸でもステキなものができるでしょう。糸の指定号数よりも太い針を使っているのは、糸の長さを最大限引き出せるからです。また、ゆるめのゲージで編むことで美しいドレープを出すこともできます。

## 【材料・用具】

針：10号80cm輪針

糸：ローワン Rowanspun DK（ウール100%、199m=50g、6〜8号、廃盤）3玉、または並太（8ply）約600メートル

その他：目数リング2個

**ポイント：**作り目から増し目で編地を大きくしていき、外側のガーター編みの縁で編み終わります。最初と最後の2目は毎段表編みし、一段ごとに4目増し目します（段の始めと終わりで1目ずつと、真中の「背骨」となる目の両脇で1目ずつ）。編み進むにつれ、12段ごとに「筋」を編んで編地に変化をつけ、ガーター編みの縁が全体の印象をまとめます。増し目にはねじり増し目\*を使っていますが、代わりにかけ目を使うと縁が穴あき模様になります。



\*ねじり増し目についてはこちらをご覧ください。

右側(=ね増右)：<http://gosyo-shop.jp/shopbrand/080/O/> 左側(=ね増左)：<http://gosyo-shop.jp/shopbrand/081/O/>

## 【編み方】

一般的な作り目で5目作る。

**セットアップ段1**（裏側）：表2、裏1（リングをこの真中の目の両脇につける）、表2

**セットアップ段2**（表側）：表2、ね増右、表1、ね増左、表2

**セットアップ段3**（裏側）：表2、裏3、表2

**奇数段**（表側）：表2、ね増右、真中の目まで表編み、ね増左、表1（=真中の目）、ね増右、端から2目まで表編み、ね増左、表2

**偶数段\***（裏側）：表2、端から2目まで裏編み、表2

奇数段と偶数段をくり返して、メリヤス編みで編んでいきます。

\*偶数段（裏側）は12段ごとに、裏編みをする代わりにすべての目を表編みし、「筋」を出します。

好みのできあがり寸法の5cm手前まで、奇数段と偶数段をくり返します。

**縁編み段1**（表側）：表2、ね増右、真中の目まで表編み、ね増左、表1（=真中の目）、ね増右、端から2目まで表編み、ね増左、表2

**縁編み段2**（裏側）：表編み

ガーター編みが出来るよう、糸を十分に残しておいて下さい！最終パートは段が長く目数が多いので、糸が多く必要です。

## 【仕上げ】

縁が好みの長さになったら、すべての目を止め、糸を始末します（僕は伸縮性のある止め方の一つ、エリザベス・ジマーマンさんの巻き止め\*で止めたのですが、縁の仕上がりに満足しています）[\* <http://www.youtube.com/watch?v=MfnvSY2Rug> をご覧ください]。

ブロッキングはお好みで。Enjoy！

©日本語版：小川菜穂子/Atelier Knits 2011 2014年6月一部改訂